

▶ 第18回目となる今回は、甲府市立甲府商科専門学校 情報処理科 1年 吉澤惇さんが、甲府警備保障 株式会社 取締役社長 久保島敏氏 を取材しました。



学生

甲府市立甲府商科専門学校
情報処理科

1年 吉澤 惇 さん

安全を守る プロフェッショナル

経営者

甲府警備保障 株式会社
取締役社長

久保島 敏 氏



▶ 学生

御社の事業内容と業務活動の中で気をつけている点は？

▶ 経営者

警備業には様々な分野があり、当社が行っているのは監視装置による「機械警備」ではなく、人が警備を行う人的警備です。これには工事現場や駐車場に出入りする車両などを誘導する「交通誘導警備」、信玄公祭りなど人が多く集まるイベントの混乱を回避するため入退場整理を行う「雑踏警備」、施設の物品の搬入・人の出入りを監視し、盗難や事故等を防止するために「施設警備」が含まれます。

実際に、このような警備業務を行う場合、お客様からの依頼を受け、打ち合わせを経た後に当日の業務を行います。この際、仕事を行う日程や人員が重ならないように調整する事が重要です。これは、この業界では引き受けた依頼を一度断ってしまうと再度そのお客様から仕事をいただくことが困難であり、その依頼は100%達成しなければならぬからです。私たちの業界はお客様との信頼の上に成立していると考えています。

さらに、人と接する業務のため、第三者から見られているという意識が大切です。このために社会人としての常識的な身だしなみや言葉使い、コミュニケーション能力が必要になります。また、警備活動には警察のような権限がないため第三者の理解と協力が必要であり、それに感謝する気持ちも大切です。

▶ 学生

若手社員の強みと社員の教育方法について

▶ 経営者

中間層の厚みを増やすために10年ほど前から新卒者の採用に力を入れています。人口の高齢化に伴い我が社の年齢層も高齢化していく状況にあるなか、多くのユーザーから若手を希望する声も増えていきます。私たちは新卒者を社員として毎年採用し、一から教育を行い10年間、20年間の経験を積み重ねる事によって、新卒者であった社員が30代40代となる頃には、人材の少ない中間層が厚みを増し、活躍できるようにと「未来への投資」をしています。

社員への教育では全国レベルの教育内容を取り入れており、交通誘導1級、2級などの専門的分野の資格の学習、火災の初期消火、AEDの使用法、警察への連絡方法などを学びます。特に資格については、該当する資格を保有していなければ仕事を請け負う事ができない場合もあり、その実技・学科からなる試験内容も近年難しくなっています。

取材を終えて・・・

私が警備業に対してこれまで抱いていたイメージは、誰でも行える業務であるというものでした。しかし、今回のインタビューを通じて、警備業には専門的知識や様々な実技能力、コミュニケーション能力が必要であり、それがお客様や私たち一般市民の安全にも繋がる大切な事柄であると知りました。一見単純のように見える行為にも、それを行うための真剣な努力が存在している事を、私が見つかったように多くの人にそれを知ってほしいと感じました。

▶ 学生

これからの展望と御社の求める人物像は？

▶ 経営者

警備業は人的サービスを行う業務なので、実際にサービスを行う警備員に付加価値を与えていきたいと考えています。例えば教育を徹底し資格保有者を増加させる事は、他社との差別化にも繋がります。近年警備業の労務単価が上昇するなど、この業界も評価してもらえています。その一方、富士山の世界遺産登録やリニア完成などにより今後も一定の需要が見込まれています。

このような中、当社が求める人材には、まず警備業の性質上、第三者に対して安心感、信頼感を与える事を求めています。そのために身だしなみ、言葉使い、態度などの第一印象を重視します。そして、複数人で行う業務が多いため、人をまとめるリーダーシップや協調性を持った人、活発で元気な人を希望しています。

